和歌山県立医科大学附属病院広報誌

まんだらげ

Vol.31
2015 WINTER

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華（まんだらげ）」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

Photo：和歌浦

理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

1. 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

Contents

新年のごあいさつ
特集／産官学連携
動脈硬化の新しい画像診断装置を開発
TOPICS／東棟２階へ中央内視鏡部移設、
化学療法センターリニューアル ほか
新任教授紹介／診療科紹介／
お知らせ／掲示板

新年のごあいさつ

理事長・学長
岡村 吉隆

全国でも有数の質の高い医療の拡充

新年あけましておめでとうございます。

平成26年は東棟が完成し、手術室や内視鏡室の増室、遠隔外来の開設、化学療法センターの拡充など設備面が整い大きな躍進の年となりました。また、これまでは中央検査部内に置かれていた病院病理部門を独立させ、「病理診断科」を設けました。

平成27年はより充実した医療体制を目指し、診療機能を強化したいと考えています。まず、「リウマチ・膠原病科」、「形成外科」の2診療科を新設します。また、心臓弁膜症のカテーテル手術にも取り組むとともに、現在保険適用外となっている最先端の手術支援ロボット“ダヴィンチ”を用いた大腸がん・腎臓がん手術に係る費用の一部を病院が負担することにより、積極的に先進医療に取り組んでまいります。

高度救命救急センターは、厚生労働省による全国の救命救急センター充実段階評価でも高い評価を得ています。また、診療実績によって定められるDPC（包括医療費支払い制度）の機能評価係数Ⅱは、昨年全国80大学病院中3位となりました。これは高度な医療提供と健全な病院の在り方が評価されたことだと自負しています。

地域医療支援につきましては、他の医療機関への紹介率・逆紹介率とも約70%と高い水準となっており、順調に病診連携が進んでいます。

病院の施設整備につきましては、現在、防潮ゲート・防水扉の設置など、県による施設周辺の災害対策も実施され、安心して医療を提供する環境整備が着々と進んでいます。

今年も皆様方の高い期待にお応えできるよう、和歌山県の医療拠点として、質の高い医療を提供してまいります。

病院長・整形外科教授
吉田 宗人

よりよい環境づくりで健全な病院運営へ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

近年、重要度・ニーズがともに増している病理診断分野に対応するため、平成26年に病理診断科を新たに設けました。もちろん、従来より病理診断は行っておりましたが、診療科として機能することとなり、より効率的に、適切で高いレベルの医療を提供することができると期待が集まっています。

また平成27年は、県下に患者数も多く要望の声が上がっていた「リウマチ・膠原病科」を新設し、県内のセンター的役割を担うとともに、「形成外科」を設け、整形外科をはじめ他の様々な科と連携をとり充実した診療を目指します。

人員配置につきましては、昨年7室増室した手術室の稼動率も上げられるよう、医師や看護師、その他の職員の増員を重点的に行う方針です。県民の皆様により高度で行き届いた医療を提供するためにも、スタッフの充実強化を進めたいと考えています。そして、職員全員が共通のビジョンを持ち、意識を高く持ち続けられるような環境づくりを進めることが何よりも大切なことと認識しています。

健全な経営は病院の基本であるとともに、常に課題の一つとなっています。新設する診療科を効果的に機能させ、より良い医療を皆様に提供できるよう臨んでいく所存です。

昨年3月に導入したO-armを始め、最新の医療機器の導入、先進医療・医療技術への取り組みなど、新たな試みを進め、病院としてのより良い医療サービスの提供を追求してまいります。

県内シームレス医療構築に向けて

副院長・第二内科教授

一瀬 雅夫

日頃の御厚情感謝申し上げます。

私共は“県内医療最後の砦”として負託された社会的使命遂行に尽力致して居ります。すなわち、高度急性期医療を主軸とし、災害時の対応も視野に“死角なしの医療体制確立”に向け、時代の要求に対応する診療の専門分化・集学化へ不断の取り組みを重ねると共に、全ての医療行為を支える高い安全性確保に向けてリスクマネージメント体制の強化を図って参りました。また、県内の医療格差是正に向けて地域医療連携の推進、遠隔医療体制構築への地道な取り組みを重ねております。

本年も皆様の変わらぬ御支援、宜しく御願い申し上げます。

充実した教育体制と地域連携の強化にむけて

副院長・看護部長

岡本 恭子

新年を迎え、年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は看護師教育の充実を目的に「看護キャリア開発センター」を開設しました。本学保健看護学部との連携を深め、学生が教育の現場からよりスムーズに臨床の現場へとつなげられる取り組みを進めています。また、看護部の継続教育に他施設の看護師の方々にも参加いただける機会を増やしました。

一方、本年10月には「看護師特定行為」研修制度に関し、保健師助産師看護師法の一部が改正され、看護師の活躍の場は更に拡大していきます。チーム医療の充実と地域連携の強化には看護の力が欠かせません。今後もより一層看護教育の充実強化を図るとともに、患者さん、ご家族が安心して治療を受けられ、地域に帰られるよう努めてまいります。

地域病院と連携し和歌山県の医療を牽引

副院長・脳神経外科教授

中尾 直之

新年あけましておめでとうございます。

昨年春、本学附属病院には東棟がオープンしました。2階の中央内視鏡部には内視鏡検査・治療室、さらに4階中央手術部の増室とともに血管内治療と外科手術を組み合わせた治療ができる『ハイブリッド手術室』が新たに整備されました。これら充実した装備に伴い検査、手術件数が着実に増加しています。

本年も地域病院と連携しつつ、和歌山県の医療を牽引し、そして県民の皆様に最高の医療を提供すべく一層の努力を続けていきたいと思います。

連携登録医のご協力で継目のない高度医療を提供

副院長・リハビリテーション科教授

田島 文博

明けましておめでとうございます。本院は「地域医療への貢献」の理念のもと、和歌山県や泉南地域の皆様に、全ての医療分野で「安心・安全」な高度医療提供に努めています。それを支えてくださるのが、地域の医院や病院の連携登録医の先生です。連携登録医の先生は、現在777名になり、必要があれば本院をご紹介してくださいます。治療中も経過を看ていただけ、治療後は、再びその先生に戻っていただくことで、高品質な医療を継目なく提供できることになります。本年も、連携登録医の先生方と力を合わせて皆様の健康と福祉の向上に努めて参ります。

特集

産官学連携 動脈硬化の新しい画像診断装置を開発

将来的にはカラー化、3次元化で迅速な診断

～動脈硬化の進行度が容易にわかる診断方法の向上に期待！ ２年以内の実用化をめざす！～

血管の動脈硬化の症状を調べる「光干渉断層法（OCT）」。和歌山県立医科大学循環器内科では、産官学協同で次世代OCTシステムを開発しています。今回、２年以内の実用化を目指し臨床応用を始めていると発表しました。

和歌山県立医科大学
循環器内科
赤阪 隆史教授

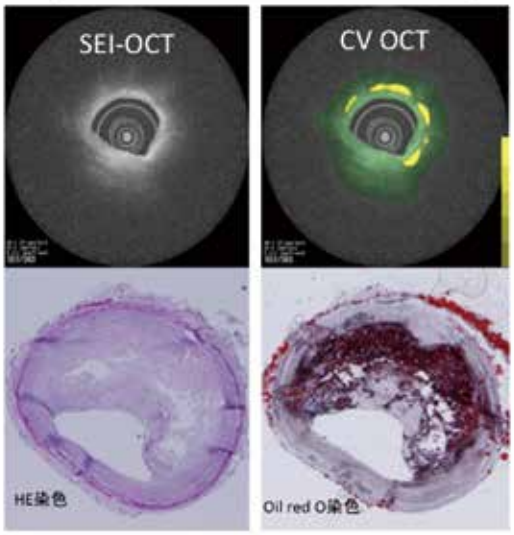
和歌山県立医科大学
循環器内科
久保 隆史准教授

心筋梗塞･狭心症の診療において、その原因を早期に発見するためには冠動脈硬化病変の画像診断は欠かせません。現在、診断には主に冠動脈造影、MSCT、MRI、血管内超音波、光干渉断層法（以下OCT）、血管内視鏡があり、それぞれの特性を理解したうえで、臨床適応しています。

その画像診断の中でも、和歌山県立医科大学循環器内科では早期からOCTの開発･研究･臨床応用に携わってまいりましたが、住友電気工業株式会社、和歌山大学システム工学部とともに、産官学共同研究体制のもとで更なる発展を目指し、「次世代光干渉断層法」の開発に取り組んでいます。平成２６年１２月４日、循環器内科の赤阪隆史教授、久保隆史准教授により、これまでの開発の経緯と成果について記者発表が行われました。

OCTとは、光ファイバーを内蔵したカテーテルを血管内に通して、近赤外線を用いた画像で動脈硬化の症状を調べる診断法です。前述の血管内超音波法などと比べて解像度が格段に高く、動脈硬化の進行度や危険な病変を10ミクロンのレベルで診断する

CV-OCTによる脂質判定



CV-OCTによる石灰化判定

CV-OCTと記載のある画像は今回開発した装置により撮影した画像です。従来の画像(SEI-OCTと記載)と比較し、動脈硬化を構成する組織により異なる色で表示されているため、顕微鏡写真(HE染色・Oil red O染色)のようにプラーク組織診断を容易に、かつ詳細に判定できます。

ことができます。

このため、研究チームでは、これまでのOCTをさらに発展させ、より高精度な画像診断を行えるシステム開発に取り組んでいます。動脈硬化はコレステロールが血管壁に堆積することから始まりますが、新しいシステムでは進行する際の一連の変化や急性心筋梗塞の原因となる責任病変の観察が可能になります。さらに三次元画像を形成することにより血管内を立体的にとらえ観察することができます。

また、これまでのOCTにおける血管画像は明瞭だがモノクロ表示のため、血管内の石灰化やコレステロール、線維性などの組織の性状を分別するのが難しい状況でした。しかし、現在では血管内組織をカラーで見られるよう研究を更に進めています。例えば石灰化は青色、脂質は黄色、タンパク成分は薄いグリーンなどで表示すれば、動脈硬化による血管壁の病変がどの組織で構成されているのか一目で見て分かるようになります。そのため、経験の浅い研究者や臨床医でも容易に組織判断できるようになり、迅速に治療を開始することが可能となります。これについても、2年以内の実用化を目指し、臨床研究を始めています。

記者会見風景

研究者コメント

急性心筋梗塞や狭心症は、心臓を栄養する血管の動脈硬化が原因となり発症します。動脈硬化の本体は血管へのコレステロール(脂質)の堆積です。したがって大量の脂質が血管に堆積すると心筋梗塞を引き起こす危険性が高くなります。

今回、我々が住友電気工業株式会社ライフサイエンス開発研究部と共同して開発した「Compovision-OCT」は、最先端の光技術を応用した次世代の血管内画像診断装置です。この装置を用いれば、心臓の血管に沈着した脂質と動脈硬化の重症度を正確に診断できます。動脈硬化は無症状のうちに進行し、急性心筋梗塞は突然発症します。近い将来、「Compovision-OCT」を普段の診療に応用することにより重症の動脈硬化を有する患者さんを早期に発見することができれば、急性心筋梗塞の予知や予防が可能になると期待しています。

和歌山県立医科大学循環器内科教授　赤阪隆史

TOPICS

東棟２階へ中央内視鏡部を移設
～診療体制を充実強化～

2014年３月に東棟が完成し、内視鏡検査･治療を行っている中央内視鏡部が中央棟４階から移設しました。

これまでは内視鏡室(3)、治療内視鏡室(1)、X線テレビ室(1)の合計5室で診療を行っていましたが、件数が年間10,000件を超えるようになり対応が難しくなっていました。このため、東棟２階に内視鏡室(6)、治療内視鏡室(2)、X線テレビ室(1)の合計9室を設け、増加している診療に対応できるようにしました。新しい内視鏡室では検査室の換気や内視鏡の運搬、患者さんの移動、複数医師による検査チェックなど、これまで以上に安全対策を強化していますので、安心して内視鏡診療を受診して頂けます。

さて、内視鏡の歴史は意外と古く、1868年に胃内を直視しようとする試みがなされ、胃鏡として実用化されていました。それから１世紀後の1950年、我が国で胃カメラが成功し、その後内視鏡はめざましく発展しました。胃や大腸だけでなく、暗黒の臓器といわれていた小腸も、カプセル型の内視鏡や尺取り虫のように腸の中を進んでいくダブルバルン内視鏡で観察できるようになりました。さらに、十二指腸から肝臓や膵臓の中に繋がる胆管や膵管といった細い管や肺に繋がる細い気管支の中も内視鏡で観察しています。また、内視鏡検査では、同時に病変の一部を採取(生検)して顕微鏡で細胞検査をすることも可能です。

～主な診療内容～

●消化器疾患

食道･胃･小腸･大腸腫瘍に対する内視鏡診断･切除
食道･胃静脈瘤や消化性潰瘍などの出血に対する止血処置
炎症性腸疾患の診断
消化管狭窄に対するバルーン拡張術
胆石症に対する経乳頭的切石術･乳頭括約筋切開術(EST)
胆膵腫瘍に対する逆行性胆道膵管造影(ERCP)･ステント留置
超音波内視鏡による膵臓･胆道疾患の診断･治療
経皮内視鏡的胃瘻造設術

●呼吸器疾患

呼吸器腫瘍(肺、気管支)に対する内視鏡診断･治療

一方、先端に超音波センサー（エコー）を取り付けた超音波内視鏡検査も進歩しています。病変の像を捉えるだけではなく、その硬さを知ることができます。また、病変部に針を刺して細胞を採取し、検査を行うことも可能となりました。内視鏡の映像は先端に付いた小さなビデオカメラを使って液晶モニタに映し出され、この画像をコンピュータ処理することにより、がん病変の広がりまで判断できるようになってきました。

内視鏡を使った食道、胃、大腸の腫瘍の治療も安全に行えるようになっています。現在では、転移のない早期のがんは手術を受けなくても内視鏡を使って切り取ること(内視鏡的粘膜切開剥離術)ができます。直腸にできた幅広いがんも、従来では手術で切除するしか方法はありませんでしたが、内視鏡を使えば直腸や肛門を失わないので、日常生活に支障を来すことがなくなりました。

このように、中央内視鏡部では日々進歩する内視鏡機器をいち早く導入し、より高度な内視鏡診療を提供しています。

中央内視鏡部の主なスタッフ

X線テレビ室
内視鏡をしながらレントゲンを使って病変に針を刺したり、肝臓から十二指腸に繋がる管を写して胆石などの治療を行うことができます。

内視鏡カンファランス室
各検査室で行われている検査はすべてこの部屋で見ることができます。同時に記録もされています。複数の医師が検査をチェックできます。

「化学療法センター」がリニューアル　～患者サービスがより充実～

がん薬物療法を専門とする当センターは年々利用者数が増加しており、がん治療における役割が大きくなっていることから、これに対応するためスペースを拡大するとともに、平成26年9月27日にリニューアルいたしました。

今回のリニューアルの主なポイントをご紹介します。

①ベッド数が増加しました

これまではリクライニングチェアとベッドを合計15台設置しておりましたが、今回のリニューアルで合計20台に増加しました。これに伴いより多くの患者さんに、当センターの高度で質の高いがん薬物療法を提供できるようになりました。

②診察室、説明室等が拡充しました

スペースの拡大に伴い、診察室、説明室、待合室を充実させ、患者さんに「より安全に、快適に、安心して」がん薬物療法を受けて頂くための環境整備を図りました。当センターは、医師、薬剤師、看護師等によるチームで日々の治療に取り組んでおりますので、分からないことや不安なことがありましたらお気軽にスタッフへご相談ください。

③調剤室が充実しました

当センターをはじめとして院内で使用する抗がん剤の調製を行う「ミキシングルーム」に最新の機材を導入し、薬剤管理の安全性向上、スタッフの安全確保体制を充実させました。

当センターでは、リニューアルした環境を最大限活用し、これからも科学的根拠（エビデンス）に基づいた最高水準のがん薬物療法を提供してまいりますのでよろしくお願いいたします。

なお、リニューアル工事に際しましては、当センターの一時移転等により多くの皆様方にご迷惑をおかけしましたが、ご理解、ご協力を頂きありがとうございました。

リクライニングチェア・ベッド

説明室

ミキシングルーム

平成27年１月から「呼吸器内科・アレルギー内科」は「呼吸器内科・腫瘍内科」へ

当院で診療しているがんには、各診療科で扱っている消化器がん、乳がん、肺がん並びに血液がんといった主要ながん以外にも、原発不明がんなど現在の診療科の枠組では治療が困難ながんがあります。これら治療が困難ながんに対して高度かつ専門的な化学療法を実施するため、「呼吸器内科·アレルギー内科」において、「腫瘍内科」としての診療を開始することになりました。

これに伴い、現在の「呼吸器内科·アレルギー内科」の標榜診療科名を「呼吸器内科·腫瘍内科」に変更しますのでお知らせします。なお、「腫瘍内科」外来は、現在の「呼吸器内科·アレルギー内科」診察室にて週1回行います。

また、呼吸器に関連するアレルギー疾患は、呼吸器内科として従前どおり当科において診療を行いますので併せてよろしくお願いいたします。

新任教授紹介

高度先進医療をあたたかい気持ちで提供します

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年９月に和歌山県立医科大学医学部血液内科学講座の教授職を拝命いたしました。大変光栄に感じるとともに身の引き締まる思いでございます。

私は熊本県の盆地で育ち、地元の中学･高校を経て、宮崎医科大学に進学しました。大学を卒業後、熊本大学医学部第二内科に所属しました。いろいろな疾患を「ズバリ診断して治療する」総合的内科医に憧れていましたが、大学院進学を機に血液内科を専攻しております。縁あって2004年に和歌山県立医科大学に勤務して以来、すでに10年余が経過しました。今では、列車や高速バスの窓から和歌山の町並みが見えると、“ほっ”とするようになっています。

血液内科を受診する患者さんの約８割が「血液のガン」です。突然聞きなれない病名で「ガン」と告げられ、めまぐるしく治療を開始されていく、患者さん･ご家族の心情は察するにあまりあります。私たちは高度先進医療を十分に提供するとともに、あたたかい診療を心がけてまいります。加えてこれまでの本院での診療実績を大切にしながら、教室員や病院スタッフの皆さんとチームを作って、血液疾患診療をさらに進歩させたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

血液内科
園木 孝志 教授

経 歴

平成元年	宮崎医科大学（現、宮崎大学医学部）卒業 熊本大学医学部第二内科
平成2年	熊本赤十字病院内科勤務
平成3年	公立玉名病院内科勤務
平成4年	熊本大学大学院医学研究科 （脳･免疫統合科学系免疫病態学）
平成10年	英国Institute of Cancer Research、 Visiting Researcher
平成13年	熊本大学医学部附属病院第二内科
平成16年	和歌山県立医科大学附属病院集学的治療･緩和ケア部 講師 12月助教授昇任
平成24年	和歌山県立医科大学医学部血液内科学講座　准教授
平成26年	和歌山県立医科大学医学部血液内科学講座　教授

人気病院ランキングで第９位にランクイン

平成27年度採用となる研修医のマッチング結果が先日発表されました。研修医マッチングとは、研修希望者（主に医学部 6年生）と臨床研修を行う病院が、一定の規則にしたがってコンピュータによって組み合わせを決定するシステムです。

平成16年に臨床研修が必修化されて以降、「研修医の大学病院離れ」が話題に上がることは多く、地方大学病院のマッチング率はおしなべて低い傾向にあります。しかし、そのような状況の中で、当院は平成 26年度、全国117の大学附属病院（施設別）の中で 9位にランクインしました。これで、平成 22年から 5年連続ベストテンにランクインしています。

この要因としては、当院の「研修プログラムの自由度が高く、県内の協力病院も含めて自分に合わせたローテートを決定できる点」、「高度救命救急センターの役割も担っているため他の大学病院よりも多くの重症患者を受け入れており、1次から 3次まで幅広い症例を経験できる救急研修」、「プライマリーケアから専門科診療に至るまで完結した、大学病院ならではの研修」などが評価されているためです。臨床研修病院として人気が高いことは、優秀な医師を採用するためにとても重要となっています。

初期臨床研修人気病院ランキング（大学病院編）

順位	病　院　名
1	東京大学医学部附属病院
2	東京医科歯科大学医学部附属病院
3	筑波大学附属病院
4	京都大学医学部附属病院
5	九州大学病院
6	長崎大学病院
6	北里大学病院
8	京都府立医科大学附属病院
9	和歌山県立医科大学附属病院
10	大阪市立大学医学部附属病院
10	神戸大学医学部附属病院

診療科紹介

腎臓内科

～検尿異常から透析や腎移植療法まで～

日本でも代表的な腎疾患の トータルマネジメント診療科

教授：重松 隆

当科は、透析療法ならびに透析導入が必要な末期腎不全患者を対象とした腎センター準備室として、泌尿器科から分かれて昭和51年に誕生しました。平成18年に、透析がまだ必要でない慢性腎臓病患者（Chronic Kidney Disease, CKD）をはじめネフローゼ症候群などの腎炎、急性腎障害、膠原病や血管炎症候群における腎疾患まで診療の対象を広げ、血液浄化センターを経て平成24年4月に腎臓内科学講座と発展的に改組されました。

ご存知のように透析患者は年々増加の一途をたどり平成25年末には全国で31万人を超え、透析導入患者の抑制は急務であります。そのためには、早期からの腎疾患専門医の介入が必要であり、軽度の腎障害をもった患者さんをご一緒に診療させて頂きたいと存じます。ご紹介いただければ誠心誠意対応させていただきます。

尚、当科は若手の医局員が多く、積極的に腎疾患の治療に日々邁進しておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

皮膚科

皮膚科学（Dermatology）の 夢（Dream）を目指す診療と研究

教授：古川 福実

皮膚科は、皮膚免疫･アレルギー（アトピー性皮膚炎、膠原病、乾癬、血管炎、自己炎症疾患など）、皮膚外科、美容皮膚科を主に担当しています。当科は、日本皮膚科学会認定施設および日本アレルギー学会認定教育施設となっており、過去には美容皮膚科や寄附講座である免疫学講座の運営や、みらい医療推進センターにおいて皮膚科、美容皮膚科の診療に参画してきました。平成24年から新たな寄附講座として光学的美容皮膚科講座が開設されました。また、地域医療への支援活動としては、関連病院の充実に取り組み、皮膚癌無料相談やアトピー性皮膚炎などアレルギー疾患の市民向け啓発事業を行っています。

特に、自己炎症性疾患に関しては、平成22年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）に「中條-西村症候群の疾患概念の確立と病態解明に基づく特異的治療法」が採択され、本疾患概念の確立と病態解明へのアプローチを行っております。

最後に、平成27年5月29日から31日の間、横浜市で開催される第114回日本皮膚科学会総会を主催し、全国の皮膚科診療の向上と社会貢献に取り組んでまいります。

お知らせ

和歌山臓器移植研究会「県民公開講座」を開催
～自己の意思を尊重し、生かすことが大事～

衆議院議員
河野 太郎 氏

和歌山県立医科大学
救急･集中治療医学講座
木田 真紀 助教

和歌山臓器移植研究会代表世話人
日本赤十字社和歌山医療センター
林　正 副院長

和歌山県立医科大学
岡村 吉隆 学長

和歌山県立医科大学
地域医療支援センター
上野 雅巳 教授

和歌山県立医科大学
救急･集中治療医学講座
加藤 正哉 教授

臓器移植についての正しい知識の普及と理解を深めることを目的として、平成26年10月17日(金)午後6時から和歌山県立医科大学講堂で「和歌山臓器移植研究会･県民公開講座」が開催されました。

はじめに和歌山臓器移植研究会当番世話人として和歌山県立医科大学地域医療支援センターの上野雅巳教授があいさつ。講演①では救急集中治療医学講座の加藤正哉教授を座長として「救急医が最後にできること～臓器提供という選択肢の提示」をテーマに救急･集中治療医学講座･木田真紀助教が講演。脳死とされる状態、その原因疾患についてわかりやすく解説。臓器提供に関する意思表示･意思確認の重要性についても語りました。

講演②では岡村吉隆学長を座長として「日本の臓器移植医療を考える」をテーマに、衆議院議員の河野太郎氏が講演。河野さんが父、河野洋平さんの生体肝移植のドナーとなった経験を通して生体移植について語り、「iPS細胞などの技術が進み、臓器を人工的につくることが可能になるでしょうが、それまでは脳死移植と生体移植でつないでいかなければなりません」と、移植についての理解を求めました。

学生から子ども連れの家族など、幅広い層が会場を訪れました。

最後に、和歌山臓器移植研究会代表世話人である日本赤十字社和歌山医療センターの林正副院長が、「移植医療への関心を高め、一人一人が臓器移植について自身の問題として考えていただきたい」と閉会のあいさつを述べました。

平成26年度生涯研修センター研修会　最新の医療カンファランス　第9回　参加費無料

■日　時　3月12日(木)午後2時～午後4時
■場　所　和歌山県立医科大学生涯研修センター研修室
※図書館棟3階
◆テーマ　免疫とは何か?何から身を守っているのか?
◆講　師　医科大学　生体調節機構研究部　改正恒康(かいしょうつねやす)

◆テーマ　女性の健康を守る～婦人科の病気について
◆講　師　医科大学　産科婦人科学教室　井筧一彦(いのうかずひこ)

■問い合わせ
和歌山県立医科大学生涯研修センター
TEL：073-441-0789

病院ボランティア活動15周年　～気持ち新たに～

和歌山県立医科大学附属病院におけるボランティア活動が、平成26年5月をもって15周年を迎えました。これまでの歴史について簡単にご紹介します。

附属病院が紀三井寺に移転した平成11年5月から活動を開始し、当初は主に玄関や総合受付において、外来患者さんの受診手続の案内やサポートを必要とする患者さんへの援助を行っておりました。平成15年からは当大学学生も参画し、小児センター及び緩和ケア・整形外科病棟等にも活動範囲が拡がり、現在に至っています。

現在は100名余りのボランティアが「患者さんが良好な環境下で安心して治療を受けることができるように援助することを目的として、無償の奉仕活動により患者サービスの向上に寄与する」を信念に、日々の活動に取り組んでいます。また、ボランティアのスキルアップを目的として、日本病院ボランティア協会へ加入し、他施設との交流や各種研修の受講も推進しています。

また、平成26年11月12日(水)に、活動開始15周年を記念した講演会が開催され、吉田病院長から感謝状及び記念品目録が贈呈され、岡村学長、岡本看護部長及び県ボランティア連絡協議会北出会長による祝辞がありました。これまでの活動に対する数々の感謝の言葉に喜びを感じ、今後に向けてより一層頑張っていこうと気持ちを新たにする機会となりました。

これからも、医療者とは違った視点で、良質な患者サービスの一翼を担うとともに、患者さんのストレスを緩和する“爽やかな風”のような存在でありたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いします。

月曜日メンバー

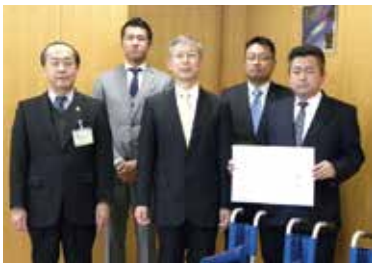
水曜日メンバー

昭和あそび塾

◇車椅子の寄贈◇

この度、和歌山県トラック協会青年協議会から、社会貢献活動の一環として、車いすを5台寄贈いただきました。平成26年11月に同協議会会長・古澤幸夫さん、副会長・金谷直俊さん、幹事・秋山総一郎さんが当院を訪問され、贈呈式を挙行しました。

「我々で何かできることが何かないかと考えて寄附させていただいた。台数は少ないが少しでも力になれれば。」と古澤会長が話され、それに対し、岡村理事長は「今日、皆様がいらっしゃる前に病院外来を見ていると、『これだけたくさんの人が車椅子を使っているのか』と改めて驚きました。当院も高齢者が増えており、すごくいい車椅子を頂けてうれしい限りです。」と話しました。

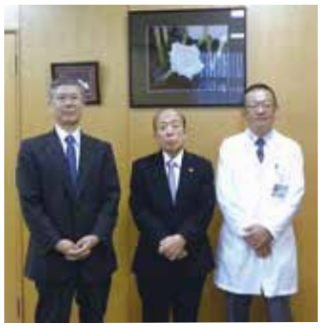


◇寄附金の受け入れについて◇

阪和郵便輸送株式会社 代表取締役社長の石井清平(いしい きよひら)さんから、がんの治療に役立ててほしいとの意向で今回、500万円の寄附をいただきました。

石井さんは本院泌尿器科の原教授による定期検査を受けておられますが、「以前から社会貢献の一環として寄附をさせていただいております。今後もがんの治療の推進に役立てていただければ。」と話されています。

当院といたしましては、石井さんの意向に沿った形で、がんの先進医療や医師の研修費用として、有効に使わせていただく予定です。本当にありがとうございました。



掲示板

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内（初めて受診される方）～

当院の外来受診は、原則として**「予約制」**とさせていただいております。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて地域連携室にFAX送信してください。

② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。

③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券（受診歴のある方）**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

地域連携室	FAX番号：073-441-0805 受付時間：月～金 9:00～17:00 （土・日・祝日・年末年始を除く）

※毎週金曜日は試行的に18:00まで受付しています。

■ご本人からのご予約

① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。

※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「○○科○○医師」と明記した紹介状をご用意ください。

② **「当院予約センター」**に直接お電話ください。

③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券（受診歴のある方）**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約センター	電話番号：073-441-0489 受付時間：月～金 8:30～16:00 （土・日・祝日・年末年始を除く）

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

看護師・助産師募集中

※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。
または下記までお問い合わせください。

和歌山県立医科大学附属病院では看護師・助産師を募集しています。

TEL 073-441-0711（事務局総務課）
http://www.wakayama-med.ac.jp
公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺811-1

病院ボランティア募集

みなさまの温かいお力をお待ちしております。

外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようボランティアの方を募集しています。

※対象：平日に活動してくださる18歳以上の方
詳細はお問い合わせください。

活動時間
外来①：8時50分～11時30分
外来②：11時50分～14時50分
病　棟：病棟と調整の上決定します。
（活動時間はいずれも調整可能です。）

問い合わせ先
和歌山県立医科大学附属病院
代表：073-447-2300
医事課　ボランティア担当

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
4 他の医療者の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話しください。
2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

和歌山県立医科大学附属病院広報誌 まんだらげ（vol.31）
2015年1月発行　発行／和歌山県立医科大学附属病院　〒641-8510和歌山市紀三井寺811-1
Tel 073-447-2300
ホームページアドレス　http://www.wakayama-med.ac.jp/hospital

＜外来受付時間＞
・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
・再診で予約のある方は指定時間（予約票の記載時間）
・休診日／土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）
※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は平成27年4月です。